

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570300917		
法人名	NPO法人 きらら山口福祉の会		
事業所名	きらら苑 グループホーム		
所在地	山口市秋穂二島327-44		
自己評価作成日	評価結果市町受理日	平成29年8月30日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年5月31日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

きらら苑は海と山に囲まれた自然豊かな立地にあり、お一人お一人の思いを尊重し、家庭的な雰囲気の中で、毎日笑顔で過ごしていただけるような関わりを大切にしています。地域の方とのふれあひも大切にしており、行事などのお誘いや新鮮なお野菜の差し入れをいただくなど、日常的な交流を図っています。年に3回行っている避難訓練のうち1回は地域の方々にもご参加いただいています。きらら苑は、地域に根付いた施設を目指しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの状態やタイミングに合わせて入浴できるように、シャワー浴や清拭の他、ストレッチャーで寝た状態でのシャワー浴の対応やリフトを導入して大きな浴槽でのリフト浴など、利用者が安心してゆっくりと入浴できるよう工夫されて支援に取り組まれています。玄関には利用者が数人並んではいることができる足湯を設置され、利用者にとって、くつろぎながら楽しめる場所となっています。事業所は自治会に加入しておられ、利用者は地域のお大師様参りや教会会に参加されたり、小学校の運動会や文化祭に出かけられたり、小学生の職場体験や中学生の福祉体験などで交流されている他、火災時には火災専用通報装置により、近隣8戸の地域住民がすぐにかかけつけることができるように協力体制が整っているなど、事業所と地域とのつながりを深めておられ、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるように取り組んでおられます。職員の希望や段階に応じての外部研修や外部講師を招いての法人研修、年間計画を作成しての内部研修など、職員のスキルアップに取り組まれている他、育児中の職員の時間短縮や勤務体制の変更など、職員が働きやすい環境づくりにも取り組まれています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を苑内に掲示しており、職員間で確認、共有して日常の業務で実践している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。月1回のミーティング時や日常の業務の中で理念について話し合い、確認して共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体に参加しており、気軽に挨拶を交わしたり、回覧板を持って行ったり、日常的なお付き合いが出来ている。地域の行事や清掃活動に積極的に参加している。	自治会に加入し、利用者と職員と一緒に回覧板を持って行ったり、年2回の清掃作業に職員が参加している。利用者は地域のお大師様参りに出かけたり、敬老会に参加している。事業所の神上げ式に神主と地域の人々が来訪している。ボランティア(ギター演奏、鼻笛、フォークダンス、演劇など)の来訪がある他、小学生の職場体験や中学生の福祉体験の受け入れをしている。小学校の運動会や文化祭に利用者は出かけ、地域の人や子ども達と交流している。散歩時には地域の人達と挨拶を交わしたり、魚や野菜の差し入れがあり、日常的に交流している	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事への参加や機会がある毎に認知症についての理解が得られる様なお話をさせてもらっている。地域の小学生や中学生職場体験の受け入れも行っている。平成28年8月より初任者研修を開催。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員が一人ひとり自己評価を考え記入し、管理者は、皆の意見をまとめる。外部評価結果を基に改善点を話し合い改善に取り組んでいる。	管理者は評価の意義について全職員に説明をし、自己評価をするための書類を配布して記入してもらい、管理者と職員は話し合いながらまとめている。職員は、評価を業務の振り返りと捉えている。前回の外部評価結果を受けて、目標達成計画を立てて、応急手当や初期対応の定期的訓練について、消防署の救急救命法を受講している他、看護師の指導でノロウィルスの対処方法や誤嚥予防などの訓練を実施しているなど、改善に向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議ではサービス評価の結果を報告している。現状報告や取り組みを報告して参加者に意見を求め、貴重な意見をいただいている。いただいた意見がサービスに反映できる様に努めている。	地域メンバーとして自治会長や副区長、交流センター長、小学校校長の参加を得て、会議は2ヶ月に1回開催している。利用者の状況、活動報告、ヒヤリハット、事故報告、避難訓練の報告、災害時の対応等について報告をし、話し合っている。メンバーより災害時の緊急対応マニュアル作成についての提案が出ているなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。家族へ案内しているが、参加は少ない。	・家族参加の工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時には情報収集や相談を行っている。市から届くメールやFAXを随時確認して情報収集を行っている。推進会議の場でもサービスの実際を報告する事で助言を頂き協力関係を築いている。	市担当者とは、介護保険の更新時や事故報告書提出時などで出向いたり、電話やメールで相談して助言を得たり、情報交換をしているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に困難事例について相談したり、情報交換している他、ほっと安心SOS見守りネットワークについて情報交換をしているなど、連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や苑内の勉強会に於いて身体拘束にあたる行為を理解し、身体拘束のないケアの実践を行っている。入居者様が安全に過ごせる工夫を話し合っている。又、随時指導が受けられる体制にある。予測できるリスクについては随時、ご家族にも説明するようにしている。	外部研修や内部研修で学び、職員は理解して抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関には施錠をせず、外出したい利用者とは一緒に出かけている。スピーチロックに気づいた時には、管理者が注意している他、職員間でも話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や苑内での学習を行い職員の意識改革を行っている。職員間でも見過ごす事が無い様に啓発活動を行うことで、未然防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用されている入居者様もおられる事から、ミーティングなどでも学ぶ機会を設けている。入居者様、ご家族様にも必要な情報提供を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり、納得が得られた上で、署名・捺印をお願いしている。同時に入所後におこりうるリスクや看取りについての対応・医療連携体制の説明も行い、同意を得る様にしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やご家族が集まれる場などで常に意見を気軽に引き出せる努力をしている。ご家族の立場に立ち、いただいたご意見は職員間で共有し、改善とサービスに反映できる様、前向きに取り組んでいる。	契約時に相談、苦情受付体制や処理手続きについて家族に説明している。面会時、運営推進会議時、年1回の家族会、行事参加時(演奏会、運動会など)、月1回の担当職員の手紙、事業所だより送付時などで、家族からの意見や要望を聞く機会を設けている。社会福祉協議会より年1回、介護相談員の来訪があり、利用者の意見や要望を聞いて事業所に伝えている。各ユニットの玄関に意見箱を設置している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日常的にも、率直な意見交換が出来る体制にある。代表者や管理者は意見や提案をできる限り運営に反映するようにしている。	代表者は、年1回の個人面談で職員の意見を聞いている他、管理者と一緒に、月1回のミーティング時や日常業務の中で職員の意見や要望を聞いている。職員の勤務体制や外部研修参加の方法について、利用者との関わりの中での提案等について、反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	年一回、代表者との個別面談を行ない、職員一人ひとりの状況把握に努めている。又、希望があれば、随時面談を行う体制にある。代表者は頻繁に現場に来て、状況把握に努めている。交代での休憩時間の確保など。職員の声を反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社会福祉協議会の介護相談員の受け入れを行い助言、指導をいただいている。また、研修や苑内勉強会の年間計画を立て、職員の育成に努めている。現場では助言ができる人材に随時、指導を受けている。	外部研修は、職員に連絡ノートなどで情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は月1回のミーティング時に復命研修をして、資料は閲覧できるようにしている。今年度は高齢者虐待防止、高齢者・障害者の介護生活を考えるなどに参加している。法人研修は、外部講師を招いて、5回、プライベート(個人情報、守秘義務)、介護のための医学基礎などを実施している。月1回の内部研修は、年間計画を作成し、認知症の学習を基本にして、身体拘束、ノロウイルスなどを実施している。新人研修は1ヶ月程度、先輩職員について、介護の技術や知識を働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会や部会などには勤務の関係で難しい場合もあるが、積極的に参加する様になっている。他施設と交流できる行事の計画もしており、交流を図るようにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初は特にご本人の想いや要望の傾聴をし、ケアプランに反映させるようにしている。まずは、職員との信頼関係の構築に努めるようにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の際にご家族の思いを十分に伺う時間を設けている。入所されてからも、入居者様のご様子などをお伝えし、不安の解消。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の中から、必要なニーズを汲み取り必要なサービスを調整している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの趣味や生活の中で、できる事を継続できる支援を行っている。していただいた事に対しては、感謝の言葉を伝え、達成感や次なる意欲につながるような支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所までに大切にされてきたご家族との絆を継続できる様な支援を心掛けている。面会時や毎月のお手紙で、近況をお伝えしている。また、体調など変化がある時にはすぐに連絡している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	情報に基づいて馴染みの場所に出掛けたり、写真などで風景を撮ったりするなどの支援を行っている。	家族の面会、親戚の人、孫、友人の来訪がある他、墓参りや自宅周辺のドライブ、馴染みの洋装店での買い物、そば屋での飲食、時計屋や花屋へ立ち寄るなどの支援をしている。家族の協力を得て、外出、外食、外泊など馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を常に把握し、座る場所の配置にも気を配っている。共用スペースでは、ソファの位置も考え、皆でゆったりと過ごせる環境作りをしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了者やそのご家族にも年賀状や季節のお便りを出し、関係の継続を大事にしている。ご家族からも、電話やお手紙で現状を伝えて下さる事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の発言や行動、表情の中から意向の把握に努めている。ニーズの把握が困難な場合はご家族などにも情報を頂き、利用者様の視点に立って話し合っている。	入居時のアセスメントシートやセンター方式の家族記録、基本情報シートを活用している 他、日常のかかわりの中での利用者の会話や様子、気づきなどを介護記録に記録し、職員間で共有し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族から情報を得たり、日常の様子や思いなどを参考にして職員間で話し合い、本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から情報を得たり、他サービス利用時の情報から経過の把握を行っている。又、昔をよく知る親類や知人、友人などの面会時に可能な限りの情報収集をし、記録に残し職員間で共有する様にしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状況を記録し、申し送りを通して、日々の状態把握をしている。今「できる事」「できない事」を日々の変化の中から見極め、適切な対応を心掛けている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、モニタリングを行い、ミーティングで情報を共有している。変化や問題が生じた場合には話し合いを行い、介護計画書の変更を行っている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に月1回カンファレンスを開催して、本人や家族の意向、主治医や看護師等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎の見直しをしている他、利用者の状態や要望に応じてその都度、見直しをして現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日々の記録にご本人の言葉や食事、水分、排泄等、身体状況を記入。対応を具体化する為に、連絡帳などを用いて共有するようにしている。情報を基に介護計画の見直しをしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様とご家族様が安心して暮らし続けられる様、その方に今必要と思われる支援は積極的に取り入れている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には地域の小学校の校長、交流センターの所長、自治会の区長、副区長の方々等の参加があり、それぞれの行事へ参加させていただける環境にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族様同意の上、主治医、眼科、歯科の往診がある。状況により他科の支援も行っている。往診の状況は、毎月ご家族に送付するお手紙でお伝えし、緊急時には電話で状況をお伝えしている。	協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の訪問診療がある他、眼科や歯科の訪問診療もある。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診情報はFAXで連絡している。家族には電話や面会時、手紙、事業所より送付時などで受診結果を伝えている。職員間では通院記録に記録して共有している。看護師1名と24時間オンコール体制を取っていて、夜間時や緊急時には協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援をしている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の身体状況は看護師や訪問看護師と共有できており、必要時には受診や看護を受けられる体制にある。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と協力病院との連携がとれており、入院、退院時の情報把握が出来やすい状況にある。入院時にはお見舞いに伺い、退院後の安心に繋がるようにしている。退院時には担当者会議を開き、情報を収集できる関係にある。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所後に必ず意向を伺うようにしている。その後、段階に応じて話し合いを行い必要時には主治医も同席の上、方針を話し合っている。	看取りの指針があり、契約時に事業所ができる対応について家族に説明し、重度化や終末期に対する意向を要望書に記入してもらっている。実際に重度化した場合は、家族の意向を聞き、主治医や看護師等と医療機関や他施設への移設、看取りについて話し合いをし、方針を決めて共有して取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	消防署の協力で救急救命を2年に1回行っている。心肺蘇生法、気道異物の除去、止血方法などを学ぶ。又、ミーティング、内部研修、マニュアル、看護師の指導などにより、学ぶ機会を持ち実践出来る様に努めている。	事例が発生した場合は、ヒヤリハット、事故報告書にその日の職員間で対策について話し合せて記録し、申し送り時に伝え、回覧し共有している。月1回のミーティング時に再検討して一人ひとりの事故防止に努めている。事故発生時に備えて、消防署の協力を得ての救急救命法を受講している他、内部研修で誤嚥予防、窒息、ノロウィルスの対処方法等を看護師の指導のもとで実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の訓練の継続	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者様と職員で定期的な火災訓練(昼、夜想定)の実施。年1回、消防署と地域の方々の参加を得て避難訓練を実施している。苑独自の防災マニュアルを作成。災害時に必要な備品の準備もしている。	年2回、事業所独自の火災時の避難訓練で、通報、消火訓練、避難誘導を実施している。毎年、消防署の協力を得て、近隣(8戸)住民と合同の夜間想定火災時の避難訓練を実施しているが、今年度は台風のため中止となっている。火災専用通報装置により、近隣8戸の住民の協力を得られるなど、協力体制を築いている。災害時(火災、地震、風水害)の対応マニュアルを作成している。新人職員や地域住民には防火管理者が利用者一人ひとりの避難誘導方法を指導している。備蓄の用意もしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	強制的であったり、利用者様の自尊心を傷つける様な言葉、態度はしない様に心掛けている。職員間でも気づきがあれば、伝え合える環境作りをしている。	研修でプライバシーの確保(個人情報と守秘義務)について学び、人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があった場合は、代表者や管理者が指導をしている。個人情報の管理、守秘義務の遵守についても理解している。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人おひとりの呼吸に合わせ、話をゆっくりと傾聴する姿勢を持ち、その方が自分の思いで行動できる様に支援している。一人ひとりの力を発揮できる場面を作る事に努めている。	/		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりのその日の気分をキャッチして対応できる様な柔軟な関わりを心掛けている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や、場に合った服装を提案したり、髪型なども思いを聞きながらセットしている。月1回、訪問理容の支援を受けている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる限り嗜好に合った食事の提供を心掛けている。盛り付けや、個別の食事形態にも配慮している。できる方には盛り付けなど、手伝っていただいている。行事食も楽しめるようにしている。	地域の人からの差し入れの魚や野菜、周辺で採れた山菜(蕨、筍、淡竹など)、事業所の畑で収穫した野菜などを使い、三食とも事業所で食事づくりをしている。形状に工夫をしたり、食事をしやすい高さに調整するなど、利用者一人ひとりに応じた工夫をしている。利用者は下ごしらえ、盛り付け、テーブル拭き、下膳、食器洗い、お盆拭きなどできることを職員と一緒にしている。季節の行事食(おせち、恵方まき、そうめんなど)、月1回のおやつづくり(一銭焼き、おはぎ、ホットケーキなど)、3ヶ月に1回、利用者の要望に応じての外出(焼肉、回転寿し、ラーメンなど)の他、家族の協力を得ての外出など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の状態に合わせた支援を行っている。食事の時間も一律ではなく、食べれる時間に合せたり、器もその方の食べやすいものに工夫している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後はお一人、おひとりの状態に合わせた口腔ケアを行っている。夜間は義歯を外していただき、洗浄剤で洗浄も行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別の排泄状態の把握を行い、さりげない声掛けや誘導を心掛けている。排泄パターンの把握、排泄用品の選択も利用者様の状態にあわせ、随時検討している。	介護記録の排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握して、一人ひとりに応じた言葉かけや誘導をしてトイレでの排泄ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、食事の工夫、乳製品を取り入れ、できる限り、自然排便を促すようにしている。また、必要時には看護師や主治医に相談し、服薬でのコントロールを行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	できる限り希望を取り入れるようにしている。お一人お一人の入浴動作を把握し、出来ない部分の介助を心掛けている。	入浴は毎日、9時から12時までと13時30分から15時までの間可能で、一日おきには、ゆっくりと入浴できるように支援している。利用者の状態に応じてのシャワー浴、清拭のほか、ストレッチャーに寝たままでのシャワー浴の対応や大きな浴槽でのリフト浴など、利用者一人ひとりの状態に応じた入浴の支援をしている。玄関には足湯の設備もあり、外の景色を眺めながらくつろげるように支援している。入浴したくない人には職員を交代したり、曜日や時間の変更などの工夫をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に休息する時間をとったり、その方の希望や、状況を見て必要な支援を行っている。不眠の方に対してはその要因をさぐり、環境を整えたり主治医の意見を聞きながら、安眠できるように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬ファイルを作り、全職員が確認できる様になっている。また、服薬後の経過観察を行い看護師と連携をとり症状の変化の確認に努めている。個別に服薬管理を行い誤薬防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションを提供したり、個別の趣味活動が継続できるような支援を心掛けている。気分転換のための外出(外食、買い物など)や日々の散歩などの支援も行っている。	テレビ視聴(相撲、時代劇など)、新聞や週刊誌を読む、ぬり絵、折り紙、サザエさん体操、ラジオ体操、口腔体操、風船バレー、輪投げ、お手玉、トランプ、カルタ、新聞たたみ、カラオケ、山菜採り、野菜の収穫、花や野菜の水やり、モップ掛け、洗濯物干し、洗濯物たたみ、テーブル拭き、タオルたたみ、下ごしらえ、食器洗い、食器拭き、ズボンの裾上げ、パッチワーク、雑巾縫いなど、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば、できる限り対応するようにしている。ご家族との外出も出来る環境にある。	周辺の散歩、海辺ウッドデッキでのティータイム、馴染みのそば屋や花屋への立ち寄り、洋装店での買い物、墓参り、自宅周辺のドライブ、四季の花見(寒桜、桜、紫陽花、菖蒲、秋桜)、初詣、大師参り(2ヵ所)、市内の他グループホームへの訪問、事業所としての外食(3ヶ月に1回)などの他、家族の協力をての外食、外出など、戸外に出かけられるように支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的にはお金の所持はしていただいてないが、外出時など希望があればお渡ししている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話の使用はしていただける。手紙も、自由にやりとり出来る環境にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度は随時確認を行い、快適な環境作りを心掛けている。季節を感じさせる食材を使ったり、花を飾ったりしながら、心穏やかに過ごせるような雰囲気を作っている。	季節の生け花や花鉢を飾っている玄関には、数人の利用者が並んで入れる足湯が設置してある。壁一面の大きな窓ガラスからは海辺の景色や行き交う人や車が眺めることができ、くつろげる場所となっている。食堂と台所は対面式となっていて、調理の匂いや御飯の炊ける匂いがして生活感がある。テレビの周囲には椅子やソファを配置し、利用者の居場所となっている。温度、湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりしたい時には、居室で過ごされる方もいる。気の合った同士が、過ごせる場所も状況を見ながら提供するようになっている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や、使い慣れたものを持ち込み居心地良く過ごせる様に工夫している。	机、椅子、テレビ、衣裳ケース、位牌、時計、ラジカセ、ぬいぐるみなど使い慣れたものや好みのものを持ち込んでいる。壁面には家族の写真や作品を飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	イスの高さを調整したり、食事の時に食べやすい台を作ったり、個人の状態に合った用具の工夫をしている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 きらら苑グループホーム

作成日：平成 29 年 8 月 29 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	全職員が実践力を身につけたい。	全職員による応急手当や初期対応の訓練の継続、全職員への周知	看護師と共有して、気道異物除去、止血の方法、骨折の応急処置、火傷の応急処置、回復体位などの対処方法を学び、全職員が把握出来る様に看護師の指導、回覧形式にして、全職員が周知する。	2年
2	5	推進会議にはご家族へ案内しているが、参加は少ない。	家族に多く参加をしていただきたい。	推進会議議事録をご家族様に送付。推進会議をより知っていただき、参加を呼び掛ける。	2年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。